

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2024.4

国立国会図書館 月報



講演会

絵本に描かれる食べもの

—異文化理解、暮らし、ジェンダーの視点から—

生駒 幸子

天気図発行開始の頃

—国立国会図書館デジタルコレクションで公開された気象庁の天気図から—

宮路 浩一

国立国会図書館 月報

NO. 756
APRIL 2024

CONTENTS

1

『角觚秘事解』

―カトソラキチ・マツダ、

アメリカン・ヒーローとなる―

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

23

館内スコープ

カレントアウェアネス的2023年の

5大ニュースは？

24

本屋にない本

『旺文社90年の歴史』

25

NDL TOPICS

5

講演会

絵本に描かれる食べもの

―異文化理解、暮らし、ジェンダーの視点から―

生駒 幸子

16

天気図発行開始の頃

―国立国会図書館デジタルコレクションで

公開された気象庁の天気図から―

宮路 浩一



表紙：朱雀、紅尾の虎
三好学『桜花図譜』下巻 芸艸堂 大正10 27cm
<https://dl.ndl.go.jp/pid/966853/1/21>
※カラー画像はNDLイメージバンク (<https://ndlsearch.ndl.go.jp/imagebank/theme/miyoshisakura>) から

『角舩秘事解』

— 力士ソラキチ・マツダ、アメリカン・ヒーローとなる —
藤元直樹



荒竹寅吉肖像



表紙

角舩秘事解

松木平吉 編 松寿堂 明治17 20丁; 23cm
<https://dl.ndl.go.jp/pid/859865> (モノクロ画像)

明治維新の後、欧化の風潮の中で衰運に
あつた相撲が人気を取り戻す切っ掛けとなつ
たのは明治17(1884)年3月10日の浜離
宮延遠館えんりょうかんにおける明治天皇天覧相撲であつた
とされる。

今回取り上げる同年6月刊行の『角舩秘事
解』は前半に相撲の様々な起源話を載せてい
るが、紙幅の多くがこの天覧相撲に費やされ、
時機に乗じた出版物であつたことが知れる。

この催事も興味深いが、本書が注目される
のは巻末に小林清親の弟子としても知られる
井上探景たんけい(安治やすじ)による日本人プロレスラー
第一号松田幸次郎こと事荒竹寅吉(米国ではソラ
キチ・マツダとして知られる)の画像とともに
に「角舩秘事解附録西洋角舩の有無」と題し、
その活躍の記事を収めていることだ。

さて、ソラキチとは一体? :

ニューヨーク・タイムズは半年毎に記事
索引を刊行していた。ここでは、ソラキチ
が、レスラーとしてデビューした時期の日本
(Japan) のWrestlingの項目を抄出する(2
~3頁)。

索引上では、この時期、ニューヨークの
イメージする「日本」とはソラキチだったと
言っても過言ではなさそうに見える。

先般、藪耕太郎『柔術狂時代』(朝日新聞



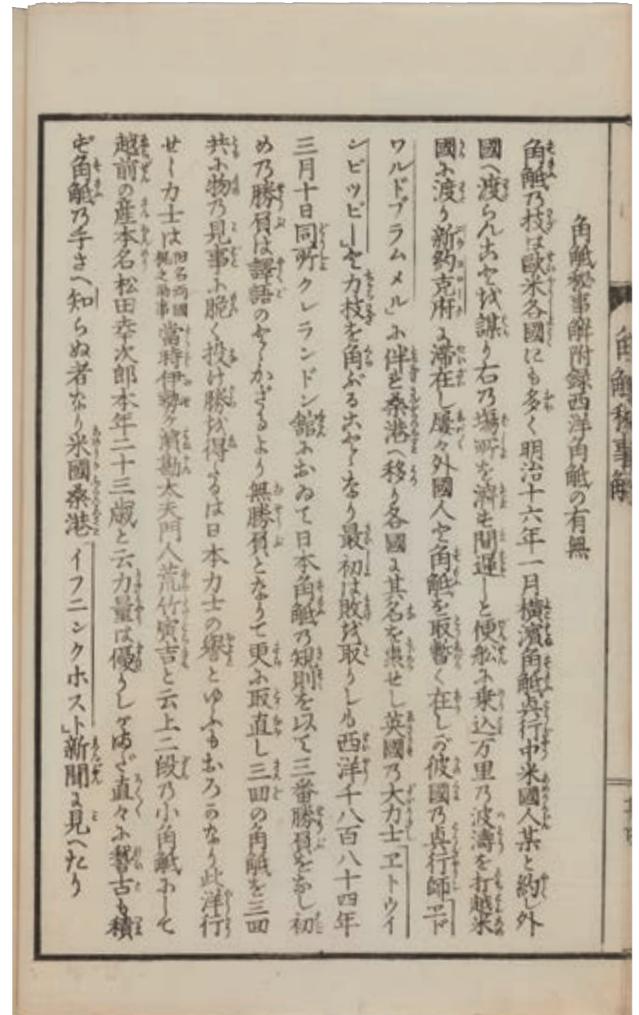
標題紙

1885 年上半期

Japan.	
Army Statistics.....	March 5-5-4
Marriage, Morality, &c.....	April 10-5-6
United States Consul Nefere Appointed.....	May 3-1-3
United States Legation Building; Gift of Land for; President's Message..	Feb. 6-3-7
United States Minister Hubbard Nominated.....	April 1-5-1

Wrestling.	
Abs-Hoeffler, (German Champion)...	March 21-5-3
Abs-Bibby.....	May 1-3-1
Abs-Muldoon; Drawn Contest.....	May 19-5-3
Abs-Sorakichi... April 2, (5-5), 17, (2-3), June 9-2-5	
Sorakichi's Wife's Complaint of Cruelty.....	March 20-8-2

出典：The New York times index : the master key to the news : for the published news of 1880-1885. New York: New York Times Company. <Z92-529>



角舩秘事解附録西洋角舩の有無

出版)で、二〇世紀初頭の米国における「柔術ブーム」が注目されたが、それ以前に短期間ながら、「相撲」スタイルの日本人格闘家に関心が寄せられた時代があったようだ。

この松田幸次郎については相撲研究家の小島貞二氏が関心を寄せ研究されておられた^①が、細部は詳らかとされないまま今日まで来てしまっているといえよう。

出身地も当初の日本での新聞報道が越前国出身としていたため福井と見なされてきたが、実はこれには訂正記事がある。

「同人は素と越前産れの如く聞き居たるが今ま越中よりの書信に依れば同人は全く越中国下新川郡新屋村農松田七郎右衛門の長男にて安政四年八月に生る」(『東京横浜毎日新聞』1885年3月12日。ただし『久徴館同窓会雑誌』36号、1891年6月は「加州津幡の傍なる俱利伽羅村の産なり」と主張している。)

伊勢ヶ濱(元両國棍之助)に弟子入り、荒竹として番付の末端に名を連ねていたという松田は1883年横浜での興行中、米国行きを誘いを受けて場所の終わりを待たずに日本を去ったと報じられる(『東京横浜毎日新聞』1884年4月24日)が、出発の様子は1883年6月13日『読売新聞』では「横浜居留地十八番館の英人ケルベ氏は先頃より大坂辺にて角力取と軽業師を雇ひ入れんと頼り

ニューヨーク・タイムズ記事索引に見る "Japan" と "Wrestling"

全文検索の時代となって紙のインデックスは無用の長物と化したと見る向きもあるかもしれないが、同時代における世界認識(何を採録するかという価値判断)を刻印した史料として重要視されるべきものだろう。

インデックスに採られた関連記事(丸数字)の実際の紙面での見出しを参考のため右に掲出する。⑦は妻に対するDV事件の報道だが、その顛末は不明。『東京絵入新聞』記事(次頁に掲載)は「妻を打擲せし」噂を否定するが、慣習の違いによる何らかの摩擦が生じていた可能性は高い。『東京横浜毎日新聞』1885年4月25日は「虎吉は日本裏長屋の格式にて細君を取扱ふ積りにて居りしにや其花嫁殿をステツキにて打擲し且其首を斬んと脅迫したるが為に嫁殿に訴へられた」と伝えている。

1884 年上半期

Jackson's Mourning Store; Opening.....	May	14-8-5
Jacobs, Senator; Reception.....	Jan.	24-1-7
Jaffray, Edith E.; Marriage.....	April	17-8-3
Jamaica; Colonial Relations Agitation.....	Jan.	30-4-7
James, F.; Trial for Blue Cut Robbery Closed; Indictment for Musc'e Shoals Robbery.....	Feb. 12, (1-6), April 18, (1-5),	24-1-6
James, Mary B.; Marriage.....	April	4-5-6
James, T. L.; Star Route Frauds Testimony Before Congressional Committee.....	March	6-3-1
Janaushek, Mme.; New Play.....	June	20-3-3
Jeannette. See Arctic Explorations.		
Jebb, Prof. R. C.; Oration before Phi Beta Kappa Society.....	June	27-2-2

"Japan" の項目なし

Wrestling.		
Bibby-Miner ..	Feb.	2-2-6
Bibby-Schmidt ..	April	18-8-4
Daly-Matsada Sorakichi ..	March	25-2-1
Japanese Champion ..	Jan.	6-7-4
Japanese Champion Thrown by Bibby ..	Jan. 15, (8-4),	March 11-2-7
McLaughlin-Ross ..	March	25-2-1
Ross-Sorakichi ..	April 9, (5-6),	June 3-2-4

- ①
- ②
- ③
- ④

ニューヨーク・タイムズ紙面での見出し

- ① No Match for Matsada -The Japanese Champion's Easy Victory. He Throws the Irish Champion in a Wrestling-Match at Clarendon Hall Before a Large Assemblage.
- ② The Champion Wrestler of Japan Among New-York Athletes.
- ③ Bibby a Child in His Hands -The "Jap" Proves His Right to the Title of Champion.
- ④ Ross Beats Sorakichi -The Cleveland Wrestler Too Much for The "Jap" at His Own Style.
- ⑤ Matsada Given the Match -Policeman Quigley Stops Wrestling in the First Bout.
- ⑥ Much Like a Fight -Matsada Sorakichi Refuses to Finish His Wrestling Match with Carl Abs.
- ⑦ Wrestler Sorakichi's Wife -She Askes the Court to Punish Him for Threatening Her Life.

1884 年下半期

Japanese Club in New-York City.....	Aug.	24-3-4
Japan.		
Minister of War; Shinkichi, K. Tak-abashi; Tour in America	Dec.	2-8-5
New-York Harbor Inspected.....	Dec.	18-5-3
Naval Commission Tour: New-York City.....	July	22-8-2
Peerage Created.....	Oct. 17, (5-5),	Nov. 4-3-5
Political Importance.....	Nov.	21-5-6
Railways.....	Oct.	26-13-2

Wrestling.		
Cannon-Ross.....	Dec.	10-1-8
Muldoon-McLaughlin.....	Nov.	10-1-4
Quigley-Sorakichi ..	Aug.	20-2-7
Wright, J. O.; Marriage ..	Sept.	26-4-6
Wright, Lot; Election Frauds; Congressional Investigation. See United States Congress.		
Wyckoff, W. F.; Marriage.....	Oct.	2-4-6
Wylie, H.; Lunacy Proceedings..	Aug. 27, (8-5), 29, (8-1),	Sept. 5, (8-1), and. ..Dec. 28-3-4

⑤

に奔走中なりしが此ほど同府にて軽業師二人は一ヶ月五百円角力取浜田庄吉小川龍太郎の両人は一ヶ年二百円伊藤鉄五郎松田幸次郎の両人は同三百円の約定にて雇ひ入れ何れも英国汽船オシヤニック号に乗組ませ昨日午前十時米國桑港へ向け横浜を出帆しました」と伝えられている。

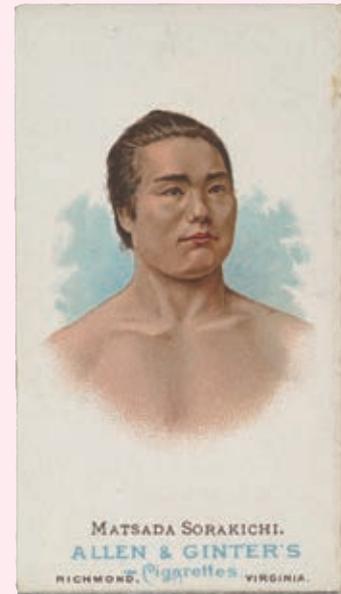
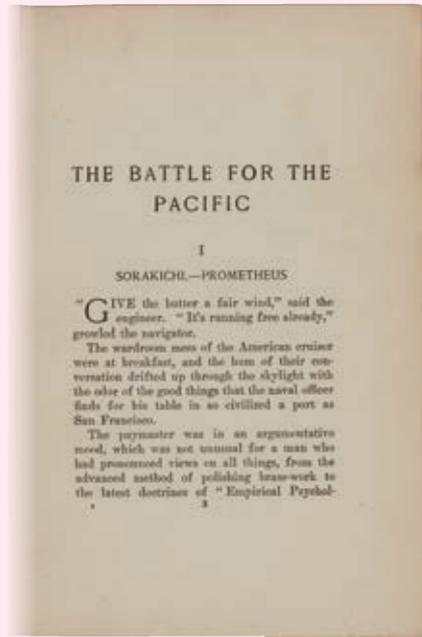
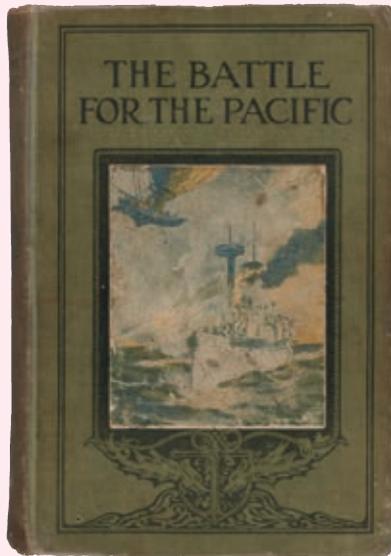
この船には留学の途にあつた福沢諭吉の息子一太郎・捨次郎が乗り合わせており、米國に招聘された芸人一行に接していた。

福沢捨次郎は、その雇主を「バーナムサルキュラス」と日記に記す^②。つまり見世物興行で有名なP・T・バーナム^③が日本の芸に眼をつけていたということになる。足芸人三人、力士三人、婦女五人、綱渡一人、大神楽二人の都合一四人。「力士は三人ながら身体小にして、逆も東京にて幕は愚か二段目にも這ること覚束なきものなり。之を連行く米國人の話にも、本成丈^{もとなるた}け大なる者を撰びたれども、稍々^{やや}力量ある者は皆洋行を嫌ふが故、已^{やむ}を得ず此の如き小なる者を雇入れたるなり」と(原文漢字カナ)

福沢諭吉には息子から、松田の活躍が伝えられていたようで、諭吉は一太郎宛の書簡に、米國の話に聴衆が大きな関心を寄せていることを記していた^④。

体を張った興行ゆえ、骨折等の怪我もあり、十全に活動出来た期間は短かったようだが、

米国に残されたソラキチ（松田幸次郎）の痕跡



1908年刊行の未来戦小説アンソロジーRowan Stevens et al., *The Battle for the Pacific, and other adventures at sea*. New York: Harper & Brothers Publishers, 1908. (筆者蔵)。Rowan Stevens作の表題作のサブタイトルが「Sorakichi-Prometheus」。この時期にはまだ彼を記憶していた人々がいたことを示すものであろう。アメリカン・ヒーローとして活躍する登場人物名にソラキチが採用されている。作者になんらかの思い入れがあったのだろう。

アメリカの煙草製造会社「Allen&Ginter」が、商品のおまけにつけたカードにソラキチが描かれている。1887年に発行された「World's Champions,」 Series 1 (N28)の中の1枚。

(出典：メトロポリタン美術館ウェブサイト <https://www.metmuseum.org/art/collection/search/410182>)



松田幸次郎（左）とその妻の肖像。松田が米国から送ってきた写真をもとにしたもの。
(出典：『東京絵入新聞』2991号，1885年6月2日，絵入新聞両文社 <https://dl.ndl.go.jp/pid/12967601/1/1>)

1891年初頭まで各地で試合に立ち続けていた。病に倒れ同年8月15日死去。
松田幸次郎の歴戦の詳細は紙幅の都合で略したが、日本に対する好悪が生じる以前の全く情報がない神話的な時代に、善玉・悪役といった色付けからも自由に活躍したその雄姿には、改めて光を当てたいところだ。

- 1 「日本プロレス事始め」『大衆文芸』53(10), 1993.11 <当館請求記号 Z13-645> 等。
- 2 「福沢捨次郎米国行日記」『福沢諭吉全集 別巻』岩波書店, 1971, p. 215 <当館請求記号 US21-7>
- 3 「見世物」を扱った人物として山師的に見られがちであったが、映画『グレイテスト・ショーマン』のヒットもあり、近年はマイノリティに居場所を与えた人物と見られている。
- 4 福沢一太郎宛福沢諭吉書簡 明治17 (1884) 年6月6日付『福沢諭吉全集 17巻』岩波書店, 1961, pp. 673-674 <https://dl.ndl.go.jp/pid/2941593/1/355>

※原則、引用の旧字は新字に、旧かなづかいはママとし、一部の漢字にルビをふった。

Food in picture books in the context of cross-cultural understanding, lifestyle, and gender

講演会

絵本に描かれる 食べもの

— 異文化理解、暮らし、
ジェンダーの視点から —



講師：生駒幸子氏

国立国会図書館国際子ども図書館では、2023年10月1日（日）から12月24日（日）まで開催した展示会「おいしい児童書」の関連講演として、龍谷大学短期大学部准教授の生駒幸子氏を講師にお迎えし、食べものが描かれた絵本についてお話しいただきました。絵本を異文化理解、暮らし、ジェンダーという3つの視点から読み解く興味深い内容でした。絵本に描かれたおもしろそうで幸せそうな場面とともに、お話の内容をダイジェストでお伝えします。

（文責 本誌編集担当）

生駒幸子氏プロフィール

龍谷大学短期大学部准教授。児童文化研究（戦中・戦後の翻訳絵本の歴史研究）を専門とし、共編著に『ことばと表現力を育む児童文化』（萌文書林）、『西宮のむかし話—児童文学から文学へ』（関西学院大学出版会）等、児童書と子どもに関する書籍を多数執筆。食と農の楽しさを伝えるWEBマガジン『Moglab』（龍谷大学）で、「絵本と食べ物のおはなし」を連載中。

※本記事に掲載する絵本はすべて国際子ども図書館所蔵。【 】内は国立国会図書館請求記号。

1 戦後絵本史における食べものが描かれる絵本―歴史的考察―

絵本の中で頻繁に食べものが描かれるようになったのは、やはり戦後であるようです。児童文学史における食べものが描かれる作品について、

1953年12月～	岩波書店〈岩波の子どもの本〉シリーズ 『ちびくろさんぼ』(1953年)、『ひとまねこざる』(1954年)
1956年4月～	福音館書店月刊絵本〈こどものとも〉 『ぞうのたまごのたまごやき』(1956年7月)、『おしゃべりなたまごやき』(1959年2月)
1962年	読み物『いやいやえん』(福音館書店)
1963年	『ぐりとぐら』(福音館書店〈こどものとも〉1963年12月)
1967年	『11ぴきのねこ』(こぐま社)
1972年	『しろくまちゃんのほっとけーき』(こぐま社)
1973年	『からすのパンやさん』(偕成社)
1976年	『はらぺこあおむし』(偕成社) 読み物『ふしぎななぎばあさん』(岩崎書店)
1981年	『くだもの』(福音館書店)
1982年	読み物『こまつたさんのスパゲティ』(あかね書房)
1983年	『14ひきのあさごはん』(童心社)
1987年	読み物『わかったさんのクッキー』(あかね書房) 『いそがしいよる』(福音館書店)
1994年	『バムとケロのにちようび』(文溪堂)

(上記の「読み物」以外は、すべて絵本)

『子どもの本と〈食〉物語の新しい食べ方』(玉川大出版部、2007年)に佐々木由美子氏の論考があります。佐々木氏は大正から昭和初期の児童文学作品について、1960年を起点にして、それより前と後の作品群を社会的・文化的視点から歴史的に考察しています。1960年代以前では食べることで精神性を重視して、露骨な食欲は忌むべきものとされている印象を受ける、と分析しています。1960年代以降は、食べる喜び、作る楽しさがいきいきと描かれる作品が増えたという傾向を捉えています。読み物と絵本の歴史は異なる様相を呈していますが、絵本にも同様の傾向が見られるなと思いつながら調査しました(上表)。

この表の先頭に出てくるのは、戦後の絵本の記念碑的出版でもある岩波書店の〈岩波の子どもの本〉シリーズです。このシリーズの編集者は石井桃子さんと光吉夏弥さんです。1953年から1954年までの2年の出版を第1期と考えると、24冊のうち22冊が翻訳絵本でした。この中で特に食べものが描かれているのが、『ちびくろさんぼ』と『ひとまねこざる』です。『ちびくろさんぼ』はホットケーキがたぐさん出てきます。そして『ひとまねこざる』には、後で触れますが、スパゲッティが出てきます。

1956年4月から、〈岩波の子どもの本〉に多大な影響を受けて、福音館書店が〈こどものとも〉という月刊絵本を刊行することになります。〈こどものとも〉の創刊号1956年から1970年までを調べてみたところ、寺村輝夫さんの『ぞうのたまごのたまごやき』と『おしゃべりなたまごやき』2冊がありました。特に食べものや食べる喜びを中心に描

いた作品ではないのですが、この2冊と『ぐりとぐら』以外には見当たりませんでした。

1962年に、読み物『いやいやえん』が出版されます。作品には、主人公のしげるちゃんの旺盛な食欲や食べる・食べられるの関係性も描かれます。これは保育士経験のある中川李枝子さんの作品ですが、子どもと一緒に生活した経験があり、子どもの実態、つまり生活や遊びを熟知しているからこそできた作品であつたと思います。そして、その中川李枝子さんが1963年12月の〈こどものとも〉において『ぐりとぐら』を発表します。これは〈岩波の子どもの本〉『ちびくろさんぼ』に触発されてきた作品で、「ホットケーキ」よりも何かおいしいものというこで「カステラ」にされたそうです。

1967年には『11ぴきのねこ』。11ぴきのねこが大きな魚を捕まえ、持つて帰って食べようね、と言っていたのに我慢できずに帰る途中で食べてしまうというお話です。1972年には、『しろくまちゃんのほっとけーき』。材料や道具を揃えて作る楽しさが表現されていますが、子どもたちは「ほっとけーき」の焼けるプロセスが描かれた見開きが大好きです。1973年には『からすのパンやさん』。様々なパンが出てきておいしいそうだなと思つた記憶があります。1976年には翻訳絵本ですが『はらぺこあおむし』。あおむしがいろんなものを食べていますが葉っぱをたくさん食べて成長し、最後は美しい蝶々になるお話です。また、読み物では『ふしぎななぎばあさん』。私も小学生のときに読んだ記憶があるのですが、とてもおいしそうなお絵で、ポークソテー、サラダ、いちごなど、いまだに覚えているくらいおいしそうで

した。

1980年代からは追いきれないので代表的なものしか取り上げていませんが、現在に至るまで、おびただしい数の食べものが描かれる絵本が出版されています。2005年には「食育基本法」が公布・施行され、国全体で食文化や食を通じた教育に力を入れるようになっていきます。

まとめておきますと、戦中・戦後占領期はやはり食べものが描かれる絵本は、全くないわけではないがわずかである印象です。1970年代から徐々に増え始めて、1980年代以降は絵本に食べものが描かれることは当たり前になりました。起点となったのは、やはり1963年の『ぐりとぐら』ではないかと思えます。食べものが描かれる絵本というのは本当に満足感、そして幸福感があります。

2 絵本に描かれる食べもの

―異文化理解の視点から―

① 『ひとまねこざる』

今は絵本という当たり前のようカラフルで楽しいものが多いですが、その出発点となったといわれているのが先ほども触れた1953年12月に始まった岩波書店の〈岩波の子どもの本〉という絵本シリーズです。『ひとまねこざる』はそのうちの1冊です。戦後占領期には特にアメリカの文化が流入してきて、GHQの斡旋によって翻訳出版物が増えてきます。占領期以降のそのような動向を見計らって出版された絵本シリーズでした。

『ひとまねこざる』の作者はH・A・レイという

動物と絵を描くことが大好きなアメリカの絵本作家です。原書はアメリカで1947年に出版されて、1954年に翻訳版が出版されました。

〈岩波の子どもの本〉のことを調べてみると、当時の編集者たちにとっても、絵本翻訳は異なる文化との出会いだったということがわかってきました。それは翻訳された言葉を見ても明らかです。例えば、主人公であるおさるのジョージが動物園から抜け出して、近くのレストランの厨房に入ってつまみ食いをする場面です。お鍋の Pasta を体に巻き付けて、つるつる食べています。原書では「Spaghetti」ですが、1954年の翻訳では、これを「うどん」と訳して



『ひとまねこざる』エッチ・エイ・レイ 文・絵 岩波書店 訳編
岩波書店 1954 【児726.7-cR45h】

います。当時〈岩波の子どもの本〉の編集者として石井さんや光吉さんと一緒に仕事をしていた恩師の鳥越信先生に伺ったのですが、うどんにするか、そばにするか、本気で議論したということでした。当時の子どもはもちろんスパゲッティなど見たことも聞いたこともない状況ですから、子ども読者に配慮してなじみのある食べものにするしかなかったという事です。

また、1954年の翻訳版は縦書きにして出版されました。当時の日本社会では縦書きが主流だったからです。左開きヨコ組みのものを、右開きタテ組みに翻訳することで進行方向が変わるのだから、絵の向きも変えなければという事で、鏡に映すようにして、これを出版用語では裏焼きとか逆版と言うらしいのですが、絵の印刷にも工夫を施しています。この工夫からは、編集・翻訳した人々が、絵本というものをどのように捉えているかがわかります。絵本というものが言葉だけではなく、絵も物語を構成する重要なものだとして認識しているということです。絵本における絵は、文学作品の挿絵のようなものではなく、物語を構成する重要な要素だと考えたのです。

先ほどの場面も、コックさんがドアから入ってくる向きや、スパゲッティを食べているジョージの向いている方向が、原書と翻訳では逆になっています。絵本の読者である子どもが絵本をどのように見ているかを、しっかりと理解していたということです。横書き、縦書きでページを開く向きが異なるから、進行方向も変わる。進行方向が変わるから、絵の向きも逆にしなければという論理です。子どもの認知

に配慮して、この方法を採用したのです。

一般的な書字方向が横書きになってから、『ひとまねこざる』は横書き、また原書と同じサイズで出版されました。翻訳の言葉も時代に合わせて変更され、うどんは「すばげっていー」になりました。絵本の編集者にとっても、絵本を読む子どもにとっても、まさしく海外の絵本は異文化との出会いだったといふことがわかります。

② 『ガンピーさんのふなあそび』

イギリスを代表する絵本作家ジョン・バーニンガムの作品です。バーニンガムは、ケイト・グリーナウェイ賞（2023年にカーネギー画家賞と改称）というイギリスでその年に出版された最も優れた絵本を描いた画家に贈られる賞を2回受賞した絵本作家です。バーニンガムの絵は繊細な線で描かれるという特徴があります。自己主張の強い絵というわけではなく、素朴でさっぱりしていて、そしてユーモアもふんだんに盛り込まれています。この作品に出てくる子どもや動物たちも、性格まで伝わってくるようなユーモラスな描き方がされています。

この作品のあらすじを紹介しておきます。主人公のガンピーさんが舟に乗って川にでかけると、まず子どもたちが「いつしよに つれてつて」と頼んできました。ガンピーさんは「いいとも、けんかさえしなげりゃね」と言って乗せてやりません。次に、うさぎ、うし、やぎと出会って、乗せて、と頼まれるのですが、みんなに「これはしないでね」という約束（例えば、うさぎには「とんだりねたりしない」）を伝えて気前よく舟に乗せてやりません。しばらくく

みんな楽しんでそうに川を下っていくのですが、そのうち、ガンピーさんとの約束事をみんな破って、それぞれが舟の上で暴れることになり、舟はひっくりかえって、みんな川のなかに落ちてびしょ濡れになってしまいます。土手にあがってお日様に当たって身体を乾かしたところでガンピーさんは言うのです。「かえりは のはらを よこぎって あるいていくとしよう」

「そろそろ おちやの じかんだから」



『ガンピーさんのふなあそび』ジョン・バーニンガム さく みつよしなつややく
ほるぷ出版 1976 【Y17-5237】

この「おちやのじかん」は、絵を見てわかるように、アフタヌーンティーというイギリス特有の食文化のひとつです。見開きいっぱい絵が広がり、文字のない、絵だけの見開きです。みんなでどんなにおいしくお茶をいただいたか、会話を楽しんでいけるのがよく伝わってきます。食卓を囲む場面には笑顔があります。ガンピーさんは、帽子をかぶり襟付きシャツとジャケットを着て正装してお客様をもてなしています。テーブルの上には、サンドイッチや季節のフルーツ、ビクトリアスポンジというケーキなどが並んでいます。スコーンやジャムとクロテッドクリームとかアフタヌーンティーに定番のものも並んでいたでしょう。そしてこの物語の最後には、空には満月が出ていて、みんなが帰っていく様子が描かれています。満月の照らす光の中をみんな満足して帰っていく、このように物語が締めくくられていることも、この絵本の大きな魅力です。

私は大学院生の時にゼミの仲間とこの絵本を読む機会があったのですが、イギリスに長く留学されていた正置友子先生が、懐かしそうにイギリスのティータイムの思い出をお話しくれました。イギリスの特産品であるバターやクリームなど乳製品を使ってお菓子がとてもおいしいことや、本当にイギリスでは一日中お茶を飲んでいることをお伺いしました。私はアフタヌーンティーについてあまり知らなかったの、興味深くお聞きした覚えがあります。この絵本の場面は、私にとって異文化との出会いでした。

まとめると、異文化理解というのは、異なる文化を知る、受け容れるということになると思います。

2冊の絵本でいうと、『ひとまねござる』の場合は、「Spaghetti」が「うどん」になって「すばげってい」になったというような、翻訳される時代の社会文化的背景によって、子どもに理解しやすい言葉に置き換えられる。そして子どもの本の編集・翻訳のむずかしさ、もちろんおもしろさも見えてきます。『ガンピーさんのふなあそび』のアフタヌーンティーの場面からは、食文化から広がっていく異文化理解、異なる文化への興味・関心が見えてきます。イギリスの田園風景や、庭、ふなあそび、お茶の文化、食器、服装など、絵本に描かれているものが異文化理解のきっかけになっていくと考えました。

3 絵本に描かれる食べもの —暮らしの視点から—

① 『14ひきのあさごはん』

いわむらかずおさんの『14ひきのシリーズ』の1冊です。1983年に『14ひきのひっこし』と一緒に2冊同時に出版されました。『14ひきのシリーズ』は、いわむらかずおさんの代表作になりました。海外でも高い評価を得ており、16か国語で翻訳出版されているそうです。このシリーズには、ちいさな野ねずみたちが、生活するために働いて、食べて、眠るといふ、私たちが毎日している当たり前の日常の暮らしが丁寧に描かれています。2017年の第20回絵本学会大会の記念講演で、いわむらかずおさんの『14ひきのシリーズ』に関するお話を聞いたことがあるのですが、なかでも印象に残っているのは、いわむらかずおさんの作品の特徴でもあるリアリティに富んだ四

季折々の自然描写についてです。この作品を完成されるまで、いわむらかずおさんは、自然や草花、小動物、昆虫というものをじつと観察して、ひとつのものについて数百枚もスケッチを重ねた、というお話でした。ああ、だからこのようにリアリティがあるのかと納得した記憶があります。

この作品の朝ごはんの場面には「みんなでつくったあさごはん。14ひきのあたらしいいちごのメニューは、パンとスープと野いちごと、ジュースにジャムです。これも、先ほどの記念講演でのことですが、いわむらかずおさんがシリーズ当初から描きたかったのは、この食事のシーンだと語られています。



『14ひきのあさごはん』いわむらかずおさく
童心社 1983 【Y17-9550】

した。「食卓を囲んでいる時間が、世代を超えて、国を超えて、家族にとって一番幸せな時間だから」と。この作品には、どんぐりの粉から作った生地を焼いてパンにしたり、おとうさんが家の外でスープを作ったり、野いちごのジュースやジャム作りなど、おいしそうな匂いのする場面も描かれています。家族全員で協力して、食べるもの、材料を探して手に入れて、道具を使って一から作る。それは楽しいけれども苦しいこともあります。でも大きな喜びである、ということがこの絵から伝わってきます。同時に出版された『14ひきのひっこし』にも、食卓を囲む場面があります。さまざまな危険を乗り越えて引越してきて、安全に暮らせる木の根っこを見つけて、その中に部屋を作って、橋を作って、水を引いてきて、食べものを集めて、やっと家族が素朴な夕ごはんを食べる。この当たり前の日常とか暮らし、生活の大切さを教えられているような気がします。生活するために働いて、食べて、眠る。非常にシンプルですが、自然の摂理にかなった暮らしぶりです。緻密であったかい描写、それから生活の手触りが感じられるような絵、飾らない優しさが伝わってきます。

『14ひきのシリーズ』というのは装幀が非常に凝っていて、絵本の表紙の次の見返しとか、終わりの見返しにも家の断面図とか、空からねずみのおうちを見た絵とかが描かれています。絵本のカバーと本体の表紙の絵が違うという楽しみ方もありますので、ぜひ絵本を手にとってご覧いただければと思います。

② 『せかいいちおいしいスープ』

アメリカを代表する絵本作家マーシャ・ブラウンの作品です。彼女はコルデコット賞という、アメリカの児童図書館協会が出している、その年に出版された最も優れた絵本に贈られる賞を3回も受賞しています。日本では『三びきのやぎのらがらどん』が最も知られていて、どの家庭にも、保育所、幼稚園にもあると言われるほどです。

この作品のあらすじを少し紹介します。昔、戦争が終わってからはこの3人の兵隊がある村にたどり着きました。お腹が空いているので1軒1軒家をまわって、村人に食べものを分けてほしいとお願いするのですが、すべての家で断られてしまいます。そこで兵隊たちは村人たちに、何も材料がないから「石のスープを作る」と言うのです。「石からスープを作るってどういうこと？」と考えた村人たちは、次々に兵隊たちのまわりを集まって、最後にはたくさんのお肉を言われるままに持ってきてしまいます。ウィットに富んだ物語がとても小気味よい、フランスのブルターニュ地方の民話をモチーフにした絵本です。

この場面はついにスープが出来上がったところです。大きなテーブルが用意され、明るい松明が焚かれ、素晴らしい宴会が始まります。村人たちは「こんなにおいしいスープを食べたことがない」と言います。村人たちは大いに食べて、大いに飲みます。そしてみなで歌って踊ります。歌と踊りは夜中まで続きます。大きなテーブルを囲む村人たちの表情は、みな笑顔で、喜びに満ちています。この幸せな場面の背景には、実は戦争による飢えや貧困があります。兵



『せかいいちおいしいスープ あるむかしばなし』マーシャ・ブラウン 文・絵
こみやゆう 訳 岩波書店 2010 【Y18-N10-J163】

隊たちは戦争で身も心もすり減らしてきた身の上です。2日間何も食べずに歩いてようやくこの村にたどり着きました。一方の村人たちは戦争で苦しんでいます。自分と自分の家族を守るのに必死で、よそから流れ着いてきた兵隊たちに食べものを分けてやるという心の余裕がありませんでした。だからこそ、この場面はより輝いて見えます。翌朝、村人たちが兵隊を見送る場面も印象的です。村人たちは「あなたがたには、いいことを おしえてもらった。なんて、れいを、いったら、いいだろう」「これからわしらは、もう たべものに こまることはない。

だって、石から スープを つくることを おぼえたんだから」と言います。村人たちは、兵隊たちの石のスープのおかげで思い出したのです。分かち合えば、惜しみなく与えれば、互いに幸せになれるということ。

この作品を作るにあたってマーシャ・ブラウンは丁寧な時代考証をしていると思われる。絵に描かれている食器や道具などの小道具、兵隊や村人の服装などを調査して描いています。優れた絵本作家たちは読者が子どもだからこそ、時間をかけて時代考証をして丁寧な絵本作りをしています。また、絵には、文章に書かれていないことがたくさん描かれています。例えば、見送りの場面で、村人たち、子どもたちも、兵隊にお土産をたくさん渡しているのです。そういう絵からも、この兵隊たちがどんなに感謝をされたかというのを絵に描き込んで表現している。それがマーシャ・ブラウンの絵本作りです。

絵本2冊について、暮らしという視点から考察してきましたが、暮らしというのは、共に作って共に食べる、そして分かち合うというキーワードでまとめられると思います。家族・コミュニティというのは、「人と人とが関わる場」です。食べものを一緒に作り、料理の楽しさを経験したり教えてもらったります。何から食べものができるのかを知ることもできますし、食べものができるプロセスも面白いものです。『せかいいちおいしいスープ』は、「無い」ところから生まれる「豊かさ」があるということを教えてください。共に暮らす、共に生きていくということをこの絵本から、読み取ることができます。

4 絵本に描かれる食べもの

— ジェンダーの視点から —

① 『おんぶはこりこり』

この作品の作者アンソニー・ブラウンもやはりイギリスを代表する絵本作家です。二度もケイト・グリーナウェイ賞（現在はカーネギー画家賞）を受賞しています。2000年には国際アンデルセン賞の画家賞という世界的にも栄誉ある賞を受賞しました。



『おんぶはこりこり』アンソニー・ブラウン 作
藤本朝巳 訳 平凡社 2005 【Y18-N05-H173】

この作品の原書タイトルは「Piggyback」です。これは翻訳者の藤本朝巳氏があとがきで、英語の「piggyback = おんぶ」とかけているようですと解説されています。表紙では、ママが、パパと赤い上着を着た男の子2人、全部で3人をおんぶしています。ママの顔には何の表情もありません。対照的に、おんぶされているパパは歯を見せて笑っています。息子たちも笑顔です。表紙は絵本の顔ですから、この表紙に絵本の内容が象徴されていると考えられます。

この作品では、絵の画面構成（レイアウト）や色調が重要な役割を果たしています。例えば、毎朝、パパが「大事な」仕事に、そして2人の息子たちが「大事な」学校へ行く前に、3人がテーブルについてママに「朝ごはんはまだー？」と大きな口を開けて、大きな声で叫んでいる様子が描かれます（この「大事な」というのは皮肉です）。ママは、みんなが出掛けた後、朝ごはんの片づけをしてベッドメイキングをして、どの部屋も掃除をして、それからやっと仕事にでかけます。ママの表情は背後や横から描かれているために見えません。ママが家事をする姿は、薄暗く影の多い色調です。

パパと息子たちが仕事や学校から帰ってくる場面では、またママに「夕ご飯はまだー？」と大きな口を開けて、大きな声で叫びますと書かれています。先ほどのママが描かれた場面とは打って変わって、パッと明るくて、鮮やかな色調になっています。かなり意図的で対照的な画面構成です。

ある日の夕方、息子たちとパパが家に帰ってくる時、「おかえり」と言ってくれる人がいませんでした。ママが家から出て行ったのです。暖炉の上には置き手紙がありました。その手紙には「ふたさんたちのおせわは もうこりこり」と書かれていました。これ、英語の原書ではひとこと、「You are pigs」とありました。挑戦的なセリフです。日本語訳は文脈をとらえた見事な文章だと感じます。

パパと息子たちの姿はここからブタとして描かれます。ママがいなくなつてからは、自分たちで慣れない家事をこなさなければならなくなります。時間をかけて料理を作っても、ご飯はおいしくない、台

所のシンクには汚れた食器が山積みですし、洗濯もできない。パパと息子たちが困り果ててしまったとき、ママはちゃんと帰ってきてくれました。絵には、ママの表情もしつかりと描かれ、パパも息子たちもブタではなく、人間の姿に戻っています。3人は自分たちができる家事はすすんでするようにになりました。この物語は、ママがっこり笑顔で、車の修理をしているという場面で終わります。

この絵本の原書は1986年に出されているのですが、日本では2005年に翻訳版が出版されています。私は翻訳版が出てまもなくこの絵本に出会ったのですが、かなり驚いたことを鮮明に覚えています。テーマも描き方も共に斬新で、画期的な1冊であったことは間違いのないと思います。

② 『300年まえから伝わるとびきりおいしいデザート』

この作品は、西欧文明における最古のデザートであるフルーツ・フルールというもののお話です。フルーツ・フルールというのは、果物をつぶしてホイップクリームと混ぜて冷やすという、いたってシンプルなお菓子です。その中でもポピュラーなブラックベリー・フルールというお菓子を巡って、1710年から2010年までの300年の間の、4つの時代、そして4つの場所で、どのようにしてこのお菓子が調理され、食べられてきたかが描かれます。お菓子作りに使われる道具、作り方、人々の暮らしぶりについて時代考証もふまえて丁寧に描かれています。どのような時代であっても、どこに住んでいても変わらない、おいしいものを作って食べる

という人類に共通する普遍的な喜びが描かれてい
ます。

原書は2015年に出版されていて、2016年
には日本語に翻訳されています。絵には、曲線が多
く使われ、あたたかみのある色彩なので優しい印象
なのですが、内容においては史実を取り扱っていて、
多様性という視点からも描かれた挑戦的な1冊です。
今回はジェンダーという視点から考察してみます。

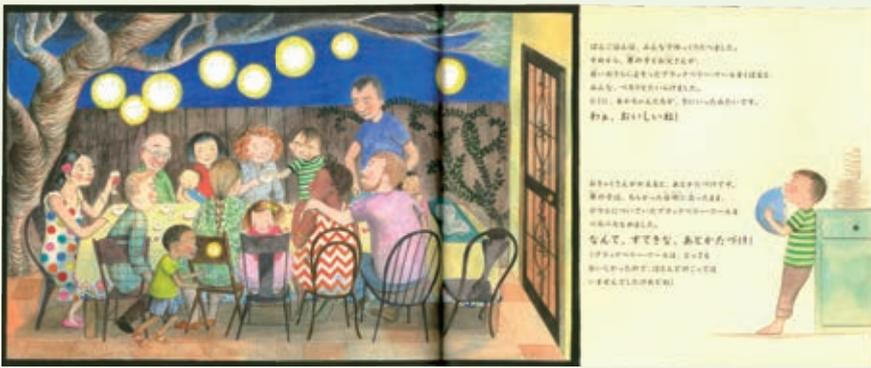
1つ目の物語は1710年頃、イギリスのライム
という町が舞台です。この物語でブラックベリー・
フルを作るのは女の子とお母さんです。そして食
事の場面で、「ごはんのあと、女の子とお母さんは、
青いおさらによそったブラックベリー・フルをお
父さん、お兄さんたちにくばりました。」と書かれて
います。

2つ目の物語は、1810年頃、アメリカのサウ
スカロライナ州チャールストンという場所にある農
場でのお話です。奴隷の女の子とお母さんがブラッ
クベリー・フルを作って、農場主の晩ごはんの後
にデザートとして配ります。奴隷の親子は給仕する
だけで、農場主の家族と同じ食卓について一緒に食
べることは決まてできません。親子はこっそりと物
置に隠れて、ボウルに残ったブラックベリー・フル
をすくって舐めます。

3つ目の物語の舞台は1910年頃のアメリカ、
マサチューセッツ州のボストンです。ここでは、女
の子とお母さんが一緒にテーブルについてデザート
を食べていますが、文章には「女の子とお母さんは、
お父さんと弟たちに、緑色のおさらによそったブラッ
クベリー・フルをくばり、みんなであいっしょにた

べました。」とあります。

4つ目の物語は2010年頃のアメリカ、カリフォ
ルニア州サンディエゴの町のスーパーマーケットで、
男の子とお父さんが、紙の箱に入ったブラックベリー
2箱と生クリーム1箱を買うところから始まります。
他の3つの物語ではお母さんと女の子がブラックベ
リー・フルを作っていました。今度は男の子と
お父さんがデザートを作ります。ブラックベリー・
フルを食べる場面では、国籍や人種、性別もさま
ざまな人々が、みんな同じテーブルについて、「男



『300年まえから伝わりとびきりおいしいデザート』エミリー・ジェンキンス文
ソフィー・ブラッコール 絵 横山和江 訳 あすなろ書房 2016 【Y18-N16-L147】

の子とお父さんが、白いおさらによそったブラッ
クベリー・フルをくばると、みんな、ぺろりとたい
らげました。」とあります。

この作品には奴隷も描かれていますが、時代の移
り変わりの中で、確実に人種差別やジェンダーなど
の人権問題への意識が高まっていることを読み取る
ことができます。

「ジェンダー」という言葉について、国連女性機関
(UN Women) 日本事務所のホームページに載ってい
る解説を引用すると、「ジェンダーとは、男性・女性
であることに基づき定められた社会的属性や機会、
女性と男性、女兒と男児の間における関係性、さら
に女性間、男性間における相互関係を意味します。
こういった社会的属性や機会、関係性は社会的に構
築され、社会化される過程 (socialization process) に
おいて学習されるものです。これらは時代や背景に
特有であり、変化するものです」とあります。家
庭における「性別役割分業意識」は文化の中に沁み
込んで、世代間で継承される価値観です。ジェンダー
問題というのは、人権の問題、人間の尊厳にかかわ
る問題だと考えます。家庭において、大人も子どもも、
一人ひとりが等しく尊ばれることというのが大切な
のではないかと。性別だけではなく、年齢、人種、文
化など属性や個性を互いに理解し、互いに尊重し合っ
て暮らすためには何が必要か？ 自分とは異なるも
のや、異なる考えとどのように対峙するのか？ 既
存の考えをどのように乗り越えて、新たな価値、意
識を創造するのか？ この2冊の絵本からは、新た
な時代への足音が聞こえると感じています。

ここまで、数冊の絵本を考察してきました。今回は特に、絵本が「社会や文化や歴史のドキュメントである」という視座に立つて考えてみました。過去はこうであったという歴史から何を学んで、現在をどのように捉えて、そして歴史の教訓から得られたものをどのように未来に活かしていくのか、絵本から考えることができるのではと思っています。

ただ、今回述べてきたことはあくまでも私の解釈です。どのような芸術においても言えることなのですが、作品の正しい解釈というものは存在しないと思っています。作品が作者の手元を離れて、鑑賞者、読み手に届いたとき、そこにそれぞれの読みがあるということです。100人いれば100通りの読みがあるということです。その人が持っている感性や価値観、年齢、育った文化や環境によっても、また異なる解釈が生まれてきます。それこそが芸術鑑賞の醍醐味というか、おもしろさではないでしょうか。ぜひ心を自由にして、絵本を読んでみてくださいと思います。

また、1冊の絵本について、じっくりと絵と言葉を味わってみることに興味を持ってもらえたらと思います。大人は文字が読めてしまうので、どうしても文字ばかりに集中してしまい、絵に何が描かれているかというのを見逃しがちです。きっと新たな発見があると思いますので、今回、ご紹介した作品も、ぜひ絵に着目してじっくり楽しんでいただけたら嬉しいですね。そして、子どもたちがどんなふうにか、そっと見守ってあげてほしいと思います。

講演の中で、生駒先生は他にも本を紹介していました。その部分をここにまとめて掲載します。

《近年出版された絵本》



『ライラックどおりのおひるごはん みんなでたべたいせかいのレシピ』
フェリシタ・サラ 作 石津ちひろ 訳 BL出版 2022 【Y18-N22-M103】

ライラック通り10番地の建物に住むさまざまな国、地域の人々を作る、世界各国の料理がレシピ付きで紹介されています。スペインのサルモレホというトマトの冷製スープ、メキシコのワカモレ（アボカドのディップ）など、世界各国の食べものを紹介して、最後はそれぞれ料理を持って庭に集まって楽しい食事会になる、という作品です。



『きょうはふっくらにくまんのひ』
メリッサ・イワイ 作 横山和江 訳 偕成社 2022 【Y18-N22-M311】

主人公のリリという女の子が、おばあちゃんと一緒に肉まんを作ります。2人は肉まんを作る途中でキャベツが無いということに気が付きます。同じ建物に住む6階の人に分けてもらいに行くのですが、その家のおばあちゃんも料理の最中で足りない材料があって、2階の人に分けてもらってきて、とリリに頼みます。リリは行く先々で足りない材料を頼まれて、もらいに行っては届けることを繰り返します。ついには、それぞれのお家のおばあちゃんが料理を持って庭に集まってきて、食事会。そこへリリの弟が生まれているのですが、ふっくら肉まんのような赤ちゃんを連れて、リリの両親が帰ってくる、という幸せな終わり方です。

(次ページに続く)

(前ページから続く)



『アグネスさんとわたし』

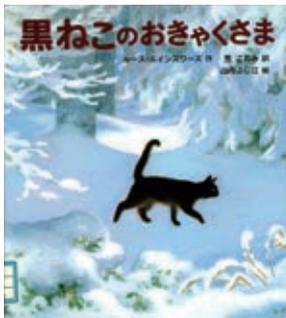
ジュリー・フレット文・絵 横山和江訳 岩波書店 2022 【Y18-N23-M66】

カナダの先住民、クレー族の少女キャセレナと、隣に住むおばあさんアグネスさんとの心の交流を描く作品です。お母さんと2人で新しい家に引っ越してきたキャセレナ。自分の家から見えるお隣の家に遊びに行き、そこに住むアグネスさんというおばあさんと仲良しになります。アグネスさんは年老いているのでだんだん体調が悪くなっていきます。キャセレナはお母さんと一緒に、アグネスさんの大好物である鮭のシチューをお見舞いに持っていきます。キャセレナは冬の間に衰弱して寝たきりになったアグネスさんに春の

訪れを見せてあげたいと、自分が描いたたくさんの植物や動物の絵を持って、部屋の壁に貼ってあげ一緒に時間を過ごします。自然描写が美しい作品です。

これらの3冊に共通するテーマは、もちろん食べものでもあるのですが、多様な民族、多様な食文化、そして交流であり共生です。現代的な課題をテーマとして取り扱っています。

《その他》



『黒ねこのおきゃくさま』

ルース・エインズワース作 荒このみ訳 山内ふじ江絵 福音館書店 1999 【Y9-M99-203】

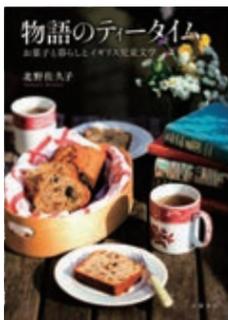
『マローンおばさん』

エリナー・ファージョン著 エドワード・アーディゾーニ絵 阿部公子, 茨木啓子訳 こぐま社 1996 【KS156-G52】

人生100年と言われますが、人生の折り返し地点を過ぎてくると、これからどのように生きていったらいいのかと

考えずにはいられなくなります。私にとって、こういう生き方をお手本にしたいなと思えるのが、この2つのお話です。どちらも年老いて、世間から打ち捨てられた貧しい人物が主人公です。生きていくのに食べものはもちろん必要でしょう。食糧は財産でもあるともいえます。年老いて、もし、自分がわずかな食糧、財産しか持ってなかったら……全く見知らぬお客に分け与えることができるでしょうか……。主人公である貧しい老人たちは、わずかな自分の食べものを全て、見ず知らずの客である動物に分け与えます。

この2つの物語には、深い人間洞察があると思います。老いることへの恐怖とか不安は親しい方々からもよく聞きますし、私自身も感じています。でも老熟という言葉があるように、人として成熟していけるという可能性があることに気付かされます。死を迎えるその日その時まで、自己顕示や保身ではなく、自分の財産である食べものを惜しみなく他者に分け与えるという尊い行いが出来るのだという希望が見えてきます。老いは人間の極限状態かもしれません。その時にこそ人の本質というか、真の美しさがにじみ出てくるのだと思います。地位も名誉も財産も何もかもなくなったところに、本当の自分があらわれるのかもしれない。いつか、この物語の主人公のようになれたらと思いつつ日々暮らしています。



『物語のティータイム お菓子と暮らしとイギリス児童文学』

北野佐久子著 岩波書店 2017 【KS74-L128】

児童文学作品を中心に、出てくる食べものが、著者のイギリス生活とレシピなどとともに紹介されていて非常に興味深かったのでご紹介しておきます。

展示会

The Imperial Library and the Dawn of Japanese Children's Books

子どもものの本の夜明け 帝国図書館展

2024
3.26^火-6.23^日

〔会場〕 国際子ども図書館
レンガ棟3階 本のミュージアム

〔開館時間〕 9時30分～17時

〔休館日〕 毎週月曜日、国民の祝日・休日(こどもの日は開館)
毎月第3水曜日(資料整理休館日)

入場
無料



展示会場
撮影OK!

※一部の展示資料は
撮影できません。

 International Library of Children's Literature
国立国会図書館 国際子ども図書館

上から「こがね丸」(少年文学 幼巻) 巖谷小波 著、大橋新太郎 編 博文館 1891、「赤い鳥」4(6) 1920年6月号
赤い鳥社、「アリス物語」(小学生全集28) 菊池寛、芥川竜之介 訳、平沢文吉 絵 興文社 1927、「君たちはどう
生きるか」(日本少国民文庫4) 吉野源三郎 著、脇田和 絵 新潮社 1949

天気図発行開始の頃 — 国立国会図書館デジタルコレクションで 公開された気象庁の天気図から —

国立国会図書館では、当館が所蔵していない入手困難資料について、公共図書館、大学図書館等からデジタルデータの形式で収集、保存し、国立国会図書館デジタルコレクションで利用提供しています。

昨年8月には、国立国会図書館支部気象庁図書館（以下気象庁図書館）からデジタルデータの提供を受けた約140年分の天気図が、「国立国会図書館デジタルコレクション」でインターネット公開されました。

これを記念して、気象庁図書館の職員に、日本で天気図の発行が始まった頃の天気図作成にまつわるエピソードを寄稿していただきました。

宮路 浩一

（気象庁情報基盤部情報政策課文献係長）



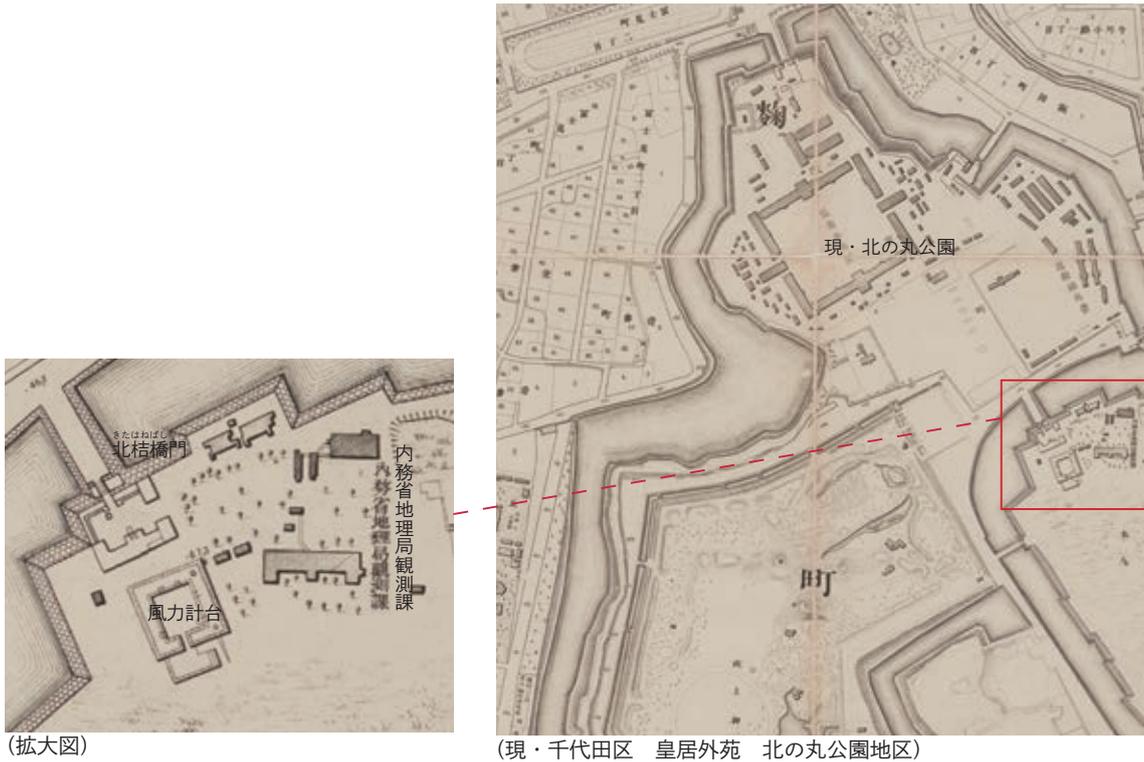
図1 風力計台（撮影年不詳 明治から大正時代撮影）＜気象庁図書館所蔵＞

※写真の画質調整を行っています。

令和5（2023）年8月に「国立国会図書館デジタルコレクション」の「他機（1883）年3月から令和4（2022）年9月までの約140年分が収録されています。今回は、初期の天気図作成の頃の気象観測環境などを簡単に眺めてみます。

<https://dl.ndl.go.jp/pid/12896309> が収録されています。今回、初期の天気図作成の頃の気象観測環境などを簡単に眺めてみます。

されインターネットで閲覧することができるようになりました。



(拡大図)

(現・千代田区 皇居外苑 北の丸公園地区)

図2 麹町区(旧本丸北桔橋門内)にあったところの東京気象台。風力計台(赤煉瓦、右ページ図1参照)が天守台の焼け跡に設置されており、観測者は観測の度に天守台に上り、風力計を読み取っていた。
『東京實測全圖』第2 幀, 1885年5月版權届, 1887年4月出版, 内務省地理局 縮尺 1:5000
< 国立国会図書館所蔵 請求記号 YG915-3 >

1. 天気図作成のための 気象観測の始まり

気象庁の始まりの組織である東京気象台は、明治8(1875)年6月に東京府第2大区(のち赤坂区)溜池葵町で気象観測を開始し、明治15(1882)年7月には麹町区(旧本丸北桔橋門内)に移転しました(図2)。

同年8月には、気象の観測方法を統一するための「観測要略」(『気象百年史』資料編30~35頁所収)が印刷され地方の測候所に配布されました。

そして明治16(1883)年3月には、天気図作成のために全国の22か所の測候所で同時観測が行われるようになり、その観測値が電報により東京気象台へ送られるようになっていきました。一通の電報には前日午後2時、同10時、及び当日午前6時の3回分の観測がまとめられていました。各地の発信から東京気象台着信までに要した時間は、沼津(静岡県)などの近い所で10~20分、札幌などの遠方では50~60分でした。

結構な時間差が生じています。電報は電信分局が送受信していました。電信では電信線、局舎、機器の設置状況により、中継を必要としました。例えば札幌では本州向けの電報は、函館で中継されました。中継は電報を専門の技術者が受けて次の電信分局に送信していました。遠方で間に中継が多くあると時間がかかります。さらに、各地から電報を中継された電信中央局(京橋区木挽町)から、東京気象台内の電信分局に22か所分の電報を順番で送信する必要があるため遠方ほど時間がかかることになったと考えられます。

2. 初期の天気図

日本における初期の天気図は、東京気象台で受信した電文をもとに職員が各地の観測値を記入し、当時の内務省御雇外国人であつて日本における暴風警報・天気予報事業創始者であるエルヴィン・クニツピング(Ervin Knipping)が等圧線を引いていました。また、摘要(天気概况)は、クニツピングが英文で書き、その英文は担当職員

告報氣天

号十六第年六十

要 摘
時六前午時都京 日曜木日一月三

Remarks.
Frustr day, March 1, 1883 6 H.A.M. Kioto Time.

都ハ都西南ニ出現ニ沖州九ハ置候ノ度低針雨晴ヲ
深東ハ高東共テシ西リナ急下ルニ池計雨晴ヲ
高兒鹿リテ吹テ以テ度速ハ至ニ軟リヨ極静ハ風ハ
リナ天曇ク多ハ地共ニ始リ降ハ
リセ昇上テ於ニ都南及西南ハ度温

An area of low pressure has appeared off Kiushu, with quickly falling barometer in the whole S.W., the highest being off the East coast. Calm to light winds prevail. Rain has set in at Kagoshima and the weather is cloudy at most stations. The temperature has risen in the S.W. and S.

臺象氣京東
ゲンビツニ2.1

For Chief Signal Office
E. Knipping

化變及家現

Report and Changes

所候測 Stations.	計	西	時	風	前	度	温	Remarks
崎 長 Nagasaki	765	-4	-6	-	0	-	5 +6	曇雨 Cloudy Rain
崎 鹿 Kagoshima	66	-3	-5	W/E	2	-	-	曇雨 Cloudy Rain
崎 宮 Miyasaki	66	-3	-5	-	0	-	6 +7	曇雨 Cloudy
和 高 Kochi	66	-2	-4	-	0	-	6 +8	曇雨 Cloudy
山 和 Wakayama	68	+1	-8	E	1	-	2 +1	曇雨 Cloudy
崎 廣 Hiroshima	-	-	-	W	1	-	3 +1	曇雨 Cloudy
阪 大 Osaka	767	-3	-4	W/E	3	-	1 +1	曇雨 Cloudy
都 京 Kyoto	67	-2	-3	-	0	-	0 -2	曇雨 Cloudy
關 下 Shimonoseki	66	-3	-5	-	0	-	5 +2	曇雨 Cloudy
境 坂 Sai	67	-2	-4	-	0	-	2 0	曇雨 Cloudy
津 金 Kanazawa	768	-2	-4	-	0	-	98 -1	曇雨 Cloudy
津 金 Kanazawa	67	-1	-1	-	0	-	4 +3	曇雨 Fair
津 松 Matsuyama	67	-1	-1	E	1	-	4 +3	曇雨 Cloudy
津 東 Tokyo	68	-1	+1	N	1	-	1 +1	曇雨 Cloudy
津 新 Niigata	68	-2	-3	-	0	-	48 -1	曇雨 Cloudy
田 秋 Akita	763	-1	-1	-	0	2	98 +1	曇雨 Clear
田 野 Nobiru	69	0	+2	-	0	-	94 -3	曇雨 Clear
古 宮 Miyako	-	-	-	-	-	-	-	曇雨 Cloudy
古 森 Amari	68	0	+1	-	0	1	94 -1	曇雨 Cloudy
館 函 Hakodate	68	0	+2	-	0	1	91 -3	曇雨 Cloudy
孔 札幌 Sapporo	-	-	-	S	2	-	93 +1	曇雨 Cloudy
車 岐 Gifu	766	-3	-5	N	1	-	0 -1	曇雨 Cloudy

測量課長 荒井郁之助

Erwin Knipping (1844~1922)

エルヴィン・クニッピング



ドイツレーヴェ生まれ。オランダの商船学校で学ぶ。航海士として遠洋航海に従事する。明治4(1871)年に東京で下船し、開成学校で数学、ドイツ語を教える。明治9(1876)年、内務省駅通泰に雇われる。明治15(1882)年内務省地理局・暴風雨取調掛となり、暴風警報事業編成に当たる。明治16(1883)年5月26日最初の暴風警報を発表する。技術者育成、天気予報業務の基本を確立し、明治24(1891)年3月満期解雇。同年ドイツに帰国、その後ハンブルグ海洋気象台で勤務した。
肖像写真：気象庁図書館所蔵

時六前午時都京
{今六十時六時京東}
{今六十時五時時長}

(加減)：ノ月ノ原傳ノ時雨時
°ノ候ニ度ノ式候ハ度温
度出及十ノ上熱水0°(ハ熱水)
ハ度下及十ノ下熱水20°10"
(80,90)

京都時午前6時と氷点下の記載部分

荒井郁之助 (1836~1909)

あらい・いくのすけ



江戸湯島生まれ。昌平黉に学ぶ。軍艦操練所頭取、講武所取締役となる。明治元(1868)年に榎本武揚らと箱館に行き、抗戦。明治5(1872)年開拓使に出征。北海道の測量を実施。明治10(1877)年内務省地理局測量課長。地理局次長、地理局気象課長を経て、明治23(1890)年8月中央気象初代台長となる。明治24(1891)年3月31日退官。全国に測候所を創設し、暴風警報・天気予報の事業を創設し、気象事業の基礎を確立した。全国大三角測量の創始、標準時の制定、日本最初の皆既日食観測(明治20年8月新潟県)などの業績がある。退官後、榎本武揚らと浦賀ドックの創設にあたった。
肖像写真：「近代日本人の肖像」
https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/6127/

図3-1 初期の「天気報告」 明治16(1883)年3月1日
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12896310_po_18830301.pdf?contentNo=1#page=2

当時の天気は、18地点が曇り、他は快晴・野暮(宮城県)、晴・浜松(静岡県)、雨・鹿児島となっています。クニッピングが引いたという等圧線は東西に769水銀柱ミリメートル(1023ヘクトパスカル)、765水銀柱ミリメートル(1017ヘクトパスカル)の2本のみとなっています。

「天気報告」の「現象及変化」の表には、測候所22地点中、宮古(岩手県)を除く21地点に観測値が記載されています。宮古の記載の仕方として、「天気報告」に「氷点は0℃ 氷点上の十及廿度は、10°、20°、氷点下の十及廿度は90、80」とあります。100を基準にとり氷点下10度ならば100-10=90となります。つまり、「天気図」と「天気報告」で新潟の気温は98とありますが、氷点下2度を示していることとなります。なぜ98なのでしょう？

これは、クニッピングが電報の通報形式

により和訳され、英文・和文の2言語で記載されました。この頃の天気図は、左右2ページの見開きで、左は「天気図」、右は「天気報告」欄でした。

明治16(1883)年3月1日の天気図を見てみます(図3-1・2)。



新潟 曇
 気圧：768mmHg
 気温：氷点下 2度
 ※ 98 は気温で氷点下 2度を表す
 風向（8方位）：—
 風力（0-6の7段階）：0



東京 曇
 気圧：768mmHg
 気温：1度
 風向（8方位）：N（北）
 風力（0-6の7段階）：1



図 3-2 初期の「天気図」 明治 16（1883）年 3月 1日
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12896310_po_18830301.pdf?contentNo=1#page=1

を定めるに当たり、電文を短くするために
 気温を数字 2 字で表すことにしたことによ
 ります。例えば氷点下 20 度の場合、20 の 3
 字を 80 とすると 2 字で表現できますし、記
 号を用いず数字のみで表現できることにも
 なります。そもそも、電報に利用されてい
 たモールス符号にはマイナスの記号がない
 という事情もあつたようです。また、98 と
 表すことで（氷点下）2 度と（氷点上）2
 度の観測の値を読み間違えないようにする
 ことにもつながりますので、電報の値を
 2 と戻さず 98 をそのまま記載していたので
 しょう。

また、当時、日本においては標準時が制
 定されておらず、京都時、東京時、長崎時
 のようにそれぞれ各地の地方時を観測時刻
 として使用していました。このため、天
 気報告の観測時刻の記載を見ると、各地の
 地方時の時間差を考慮して「東京時 6 時 16
 分」、「長崎時 5 時 36 分」としており、「京
 都時 午前 6 時」を基準にして同時観測され
 ていたということがわかります。京都時で
 同時観測された理由として「京都は旧首府
 且皇居の在る所にして古来より日本図には
 京都を以て本初子午線と為せり又第一京都

文字と海・陸地部分の印刷のずれ



明治 16 (1883) 年 4 月 1 日 午前 6 時
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12896311_po_18830401.pdf?contentNo=1#page=1



明治 16 (1883) 年 4 月 19 日 午前 6 時
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12896311_po_18830419.pdf?contentNo=19#page=1



「函館」と海岸線を見ると 4 月 19 日は「館」が海岸線にかかっておらず、日によるずれがわかります (矢印①)。「Sapporo」と湖 (支笏湖) をみると 4 月 19 日は Sa に湖が重なっており、ずれがわかります (矢印②)。また、経線でも海岸線と陸地の境界をみると若干ですがずれがわかり、同色ですが重ね刷りされていることが推定されます (矢印③)。

海部分の印刷のかすれ



明治 16 (1883) 年 6 月 30 日 午前 6 時
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12896313_po_18830630.pdf?contentNo=30#page=1

午後 10 時をみると 梓線の下は線は途切れることなく印刷されていますが、海の線は直線状に印刷されていない部分があることがわかります。同色ですが海と梓線で印刷が異なるためと推定されます。また、経線 (130°) が印刷されていることから経線は海とは別版と推定されます。



明治 16 (1883) 年 6 月 30 日 午後 10 時
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12896313_po_18830630.pdf?contentNo=30#page=5

3. 「天気図」の印刷の仕方

天気図の印刷の仕方については、試行錯誤の跡が天気図にみえます。

明治 16 年 3 月中は陸が茶色、海が青色、等圧線などが黒色により印刷される 3 色印刷でしたが (前ページ図 3-2)、翌月からは青色、黒色の 2 色印刷になっています。ここで印刷という図書資料的な面から天気

は日本の中央に在るを以て其東西に於ける時の差は殆ど相等し第二京都是緑威東経 (9 時 03 分) に於て殆ど 9 時の所に在り」とクニツピングは述べています (堀内剛二「本邦暴風警報創業始末 (4) 御雇外人工ルウィン・クニツピングの事蹟」『測候時報』21 巻 12 号、1954 年 12 月)。なお、中央標準時は、明治 21 (1888) 年 1 月 1 日の天気図から採用されています。

「天気報告」には、「天気図」の等圧線や天気概況を作成したクニツピングと、当時の内務省地理局測量課長である荒井郁之助 (後の初代中央気象台長 明治 23 (1890) 年 8 月 2 日〜明治 24 (1891) 年 3 月 31 日 (退官)) の署名もみられます。

17日午前6時には「遅達電報を加へ再版す」とあります。「摘要」部分に「長崎、鹿児島、岐阜、浜松及沼津より電報達せず」とありますが、観測値は記載されており、遅達電報の観測値を加え再作成されたことがわかります（前ページ図5）。

その後も22日午後2時頃まで断続的に「遅達電報を加へ再版す」の記載がみられます。19日午後2時は「九州より電報達せず」とあり、長崎、佐賀、鹿児島、宮崎の観測値は空欄となっています。この時は遅達電報を加えた再作成は行わなかったようです。

また、大正12（1923）年9月1日の関東大震災の時は、中央気象台の観測業務は継続されましたが、天気図の発行ができませんでした。一時、全国天気予報暴風警報に関する事務の執行を神戸の海洋気象台で代行しています。中央気象台では9月21日に仮製天気図（第1号）が発行されます。大正13（1924）年8月に刊行された『関東大震災調査報告』気象篇に収められた予報係梶間百樹「大震災後の予報及警報実況」によると「石版、印刷の準備に努

めた結果二十一日始めて天気図を印刷し得るに至り、この日仮製第一号天気図を発行した。爾来日曜日、祭日を除き（但し暴風等で特に其必要ある場合は発行した事もある）引き続き発行して居る。」とあり、日曜日祭日は発行していませんでした（例外発行日：大正13年1月3日（木）（元始祭）、1月6日（日））。

なお、6月14日（土）までは天気図に仮製天気図の記載があります。6月15日（日）は未発行で、6月16日（月）以降タイトルに仮製天気図の記載はなくなります。この日以降日曜日、祭日も発行されています。

明治16（1883）年3月1日に作成された天気図は関東大震災、昭和15（1940）年の震災による大手町の火災（中央気象台大手町本館類焼）、東京大空襲を免れ気象庁図書館の資料となっており、今回、デジタル化された資料として新たに「国立国会図書館デジタルコレクション」に加えられましたのでご活用ください。

○主な参考文献

「一昨十五日各地暴風雨ノタメ電信不通ニ付開通マテ天気図ヲ刊行セズ」『官報』第368号、1884年9月17日、p.10
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2943573/1/6>

「標準時ト各地方時トノ差」『官報』第1203号、1887年7月4日、p.10
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2944437/1/6>

「標準時ノ施行」『官報』第1343号、1887年12月19日、p.13
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2944577/1/7>

通信省編『通信事業五十年史』通信省、1921
<https://dl.ndl.go.jp/pid/960186>

梶間百樹「大震災後の予報及警報実況」藤原咲平編『関東大震災調査報告』気象篇、中央気象台、1924、pp.130-135
<請求記号 14.6ニ-239>

東京天文台編『理科年表』第1冊（大正14年）、東京天文台、1925
<https://dl.ndl.go.jp/pid/977669>

中央気象台編『中央気象台一覽』中央気象台、1926
<https://dl.ndl.go.jp/pid/984998>

『東京中央電信局沿革誌』東京中央電信局、1931
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1881918>

中央気象台編『中央気象台一覽』中央気象台、1937
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1114406>

堀内剛二「本邦暴風警報創業始末（4）御雇外人エルウィン・クニツピングの事蹟」『測候時報』21(12)、1954.12、pp.363-368
<https://dl.ndl.go.jp/pid/3483537/1/11>

『東京中央電信局沿革史』電気通信協会、1958
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2487930>

日本電信電話公社電信電話事業史編集委員会編『電信電話事業史』第1巻、電気通信協会、1959
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2490977>

熊本電報百年史編集委員会編『熊本電報百年史』熊本電報局、1968
<https://dl.ndl.go.jp/pid/3452174>

『気象百年史』気象庁、1975
本編 <https://dl.ndl.go.jp/pid/9673977>
資料編 <https://dl.ndl.go.jp/pid/9673978>

竹田邦子「震災直後の天気図」『気象庁図書月報』40(5)、気象庁、1994.8/9、p.59 <請求記号 Z21-36 >

※引用の旧字は新字に、カナは平仮名に改めました。



CAポータルでよく扱う話題をタグクラウドで視覚的に表したものです。話題は多岐にわたりますが、「学術情報流通」「デジタル化」「災害」などの登場頻度が高いことが分かります。



カレントアウェアネス的 2023年の5大ニュースは？

初めまして。私は図書館と図書館情報学に関する最新の情報を発信するウェブサイト「カレントアウェアネス・ポータル」(CAポータル)の運営を主に担当しています。初めてCAポータルの名前を聞くという方には図書館関係のニュースサイトのようなのと説明することが多いです。

有用なニュースを発信するためには、新鮮な情報を大量に収集しなければなりません。係員4人でウェブの隅々まで、重要なニュースを漏らさず収集できるように尽力しています。

国立国会図書館のウェブサイトに掲載されるからには信頼性が重要です。情報源に信頼はおけるのか、基本的な事実確認はとれているのか、特定の企業や団体の宣伝になっていないかなどに配慮しながら記事を書いています。

CAポータルの実態をイメージしてもらうために、2023年によく読まれた記事上位5件を紹介しましょう(本文はぜひCAポータル上で確認してみてください)。

- 1位 Times Higher Education (THE) 社、世界大学ランキング2023を公開
- 2位 文部科学省、「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」の作成について(通知)を发出

- 3位 大阪府立中央図書館、カムダウン・クールダウンスペースを設置
- 4位 図書館における返却遅れを減らす試み… Microsoft Teamsを活用したナッジによる延滞圖書の督促(文献紹介)
- 5位 「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が閣議決定…公民館・図書館などの社会教育施設の活用等

CAポータルを図書館関係のニュースサイトと表現しましたが、取り上げる話題は非常に多岐にわたります。1位が世界大学ランキングについての記事となったのは、CAポータルの読者のおよそ半数が大学図書館員の方々であることを反映した結果と言えるかもしれません。2位の生成AIのガイドラインなどは一見図書館と関係ないように思われるかもしれませんが、図書館を取り巻く社会に目を向け、広くアンテナを伸ばすことも重要と考えています。3位の大阪府立中央図書館に関する記事は公共図書館による新規性のある取組を取り上げるもので、まさにCAポータルらしいと言えます。

図書館界の今を伝えるべく、毎日更新されるCAポータル <https://current.ndl.go.jp> にぜひ今度アクセスしてみてください。
(図書館協力課カレントアウェアネス事務局員P)

本屋に

ない

本



旺文社90年の歴史

旺文社創業90周年プロジェクト 編

旺文社 刊

2021.11 151 p ; 22 cm

<請求記号 DH22-M879>

本書は、教育関係の書籍の出版や事業を手がける旺文社が創業90周年を記念して令和3（2021）年に刊行した社史である。昭和6（1931）年に創業した旺文社は、学生向けの通信添削教育からスタートし、多くの学習参考書を出版してきた。本書をひも解くと、社史ではあるのだが、これまでに同社が出版した数々の学習参考書の紹介が中心に据えられ、さながら学習参考書の展示図録のようにも感じられる。学生時代に何度も手に取った懐かしい受験参考書に再会したり、社会人となった現在もお世話になっている資格対策書などを改めて見つめ返したりすることができるとなっている。

本書では、高校生向けの受験参考書や受験情報誌、幼児・小中学生向けの学び本、一般向けの書籍や資格対策書など、幅広い年代に向けて刊行された書籍が満遍なく、写真と解説により紹介されている。中でも、創業して間もない1930年代に刊行され、現在も販売され続けている『英語基本単語(熟語)集』(通称:「豆単」)、『英文標準問題精講』(通称:「英標」)などの受験参考書や、『螢雪時代』(創刊時は『受験旬報』)、『全国大学入試問題正解』(創刊時は『入学試験問題詳解』)といった受験情報誌のページからは、刊行された当時の社会背景や受験事情、著者・編者の想いや編集の様子、そして、社会の変化に合わせて改訂を重ねて現在に至るまでの経緯などをうかがい知ることが出来る。また、昭和59(1984)年に刊行され、「豆単」や「英標」と

ともに同社を代表するベストセラーとなった『英単語ターゲット1900』のページからは、これまでのベストセラーとは異なる学習者のニーズの変化や当時の編集部奮闘ぶりを感じ取ることができて興味深い。さらには、書籍以外にも、大学受験をめぐる地域間格差をなくしたいとの思いから始まった「大学受験ラジオ講座」(昭和27(1952)〜平成7(1995)年)やいち早くコンピューターによるデータ処理や偏差値を導入して実施された「旺文社模試」(昭和29(1954)〜平成12(2000)年)、平成13(2001)年から運営を開始した受験情報サイト「大学受験パスナビ」などの事業も紹介されている。それぞれのページを通じて、「学

ぶ人」の力になりたい」と社会の変化に合わせて試行錯誤して取り組んできた旺文社の90年の歴史を感じられるとともに、同社の取組から逆照射されるその時々々の教育制度や教育事情を考察し、教育の歴史の一面を垣間見ることが出来る社史でもある。なお、本書の別冊として、『英単語ターゲット1900』ならぬ『旺文社ターゲット90』が刊行されており、まさに英単語を覚えるように旺文社の歴史を暗記して(?)理解できる一冊となっている。本書とともに同社のホームページでデジタル版も公開されているので、こちらもぜひご覧いただきたい。(伊藤 暁子)

※本書は旺文社のホームページでデジタル版の閲覧が可能です。

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

NDL Topics

マイクロ製品を作成する複写サービスの終了 と新規サービスの開始について

次の複写サービスは、マイクロ製品を作成するための機器や材料を安定的に確保することが困難なため、3月31日をもって申込受付を終了しました。また、4月1日から新たな複写サービスを開始しました。

○3月31日で終了した複写サービス

- ・撮影によるマイクロフィルム作成（資料を撮影してマイクロフィルムを作成）
- ・マイクロからマイクロへのプリント（マイクロフィルムからマイクロフィルム、マイクロフィッシュからマイクロフィッシュを複製）

なお、マイクロ資料からの電子式引伸（紙への印刷）については、今後もサービスを継続します。

○4月1日から開始した複写サービス

- 撮影によるマイクロフィルム作成に代わるサービスとして、通常のコピー機で複写を行わない資料（古典籍資料、劣化した資料等）について、資料を撮影した画像を紙に印刷して提供するサービスを開始しました。
- ・1枚当たりの複写料金は次のとおりです。
 - ・白黒（A4、B4、A3） 187円（税抜170円）
 - ・カラー（A4、B4、A3） 215.6円（税抜196円）

何とぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

○問合せ先 利用者サービス部複写課

電話 03(3581)2331（代表）

新刊案内

レファレンス 878号

英国の国内法における駐留外国軍隊に関する規定
EUのデータ保護法制とデジタル立憲主義—A—規
制の憲法的ガバナンス—
子どもの入院と家族の付添い



A4 72頁 月刊 1,100円（税込）
発売 日本図書館協会

カレントアウェアネス 359号

「ユネスコ公共図書館宣言2022」…2022年版
に至る歩みとその活用
公共図書館と大学の連携事例の一考察
ジャパンリンクセンター（JALC）の歩みと今後の
展望
オスロ大学図書館デジタルサービス



A4 16頁 季刊 440円（税込）
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

本の万華鏡 第34回

推し活



五渡亭国貞『やくしやにがほ絵団扇画』【237-376】

狂想曲

推し活は
江戸時代にも
あった!?

好きなアイドル・俳優・アニメキャラクターなどを応援する活動、通称「推し活」。新しい社会現象に思えますが、実は昔から「推し活」があったのをご存じでしょうか。

本展示では、江戸時代や明治時代に人々が夢中になっていた茶屋娘、歌舞伎役者、女義太夫に焦点を当て、当時の「推し活」の様子を紹介します。



スマートフォンから
もご覧になれます。



本の万華鏡

「化粧」「鉄道」「はやり病」「和菓子」「温泉」など、34のテーマで、国立国会図書館の蔵書を紹介しています。どなたでもご覧になれる、オンライン展示です。

URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/>

4

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2024.4

NO.756
APRIL
2024

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Kakutei hiji kai: Sumo wrestler Sorakichi Matsuda becomes an American hero
- 05 Lecture by IKOMA Sachiko
Food in picture books in the context of cross-cultural understanding, lifestyle and gender
- 16 When weather maps were first published: Weather maps of the Japan Meteorological Agency available at the NDL Digital Collections
MIYAJI Koichi
- 23 <Tidbits of information on NDL>
The top five most read articles in Current Awareness Portal in 2023
- 24 <Books not commercially available>
Obunsha 90nen no rekishi
- 25 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和6年4月号 (No.756)

令和6年4月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 川西晶大

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を転載する場合（全文または長文にわたり抜粋する場合、または図版を転載する場合）には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（<https://www.ndl.go.jp/>）>刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 4 . 4

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士